

本校の研究について

子どもが自ら学びに向かう各教科等を合わせた指導の授業づくり
-AARサイクルを生かした実践-

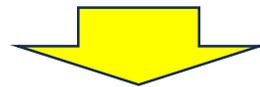
主題設定の経緯

主題設定の背景（社会の動向）

- ・ 社会の在り方が劇的に変わる「Society5.0時代」の到来
- ・ 新型コロナウイルスの感染拡大など先行き不透明な「予測困難（VUCA）な時代」

（省略）主体的に学び続けて自ら能力を引き出し、自分なりに試行錯誤したり、多様な他者と協働したりして、新たな価値を生み出していくために必要な力を身に付け、子供たち一人一人が、予測できない変化に受け身で対処するのではなく、主体的に向き合って関わり合い、その過程を通して、自らの可能性を発揮し、よりよい社会と幸福な人生の創り手となっていけるようにすることが重要である。

（中央教育審議会, 2016）



「個別最適な学び」 「協働的な学び」

(*)主体的に学習を調整することができるよう促していくことが求められる。

主題設定の背景（これまでの研究）

令和元年度～3年度

知的障害のある子どもの「深い学び」や「資質・能力」について、

子どもの内面に注目しながら

知的障害のある
子どもの「深い学びの姿」を捉える

成果



千葉大附属版
深い学びの姿

「深い学びを支える視点」は何か、
考える

成果



千葉大附属版
合わせた指導の授業づくりの視点

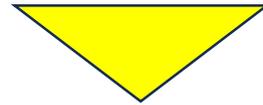
本校の合わせた指導の授業作りの枠組みを整理した

研究主題について

令和4年度、5年度

子どもの一人一人の
「**内面に注目する**」
という方向性は継続

子どもが自ら学びに向かう各教科等を合わせた指導の授業づくり
—AARサイクルを生かした実践—



より子どもが主体的に「**かんがえる**」姿を追求していきたい

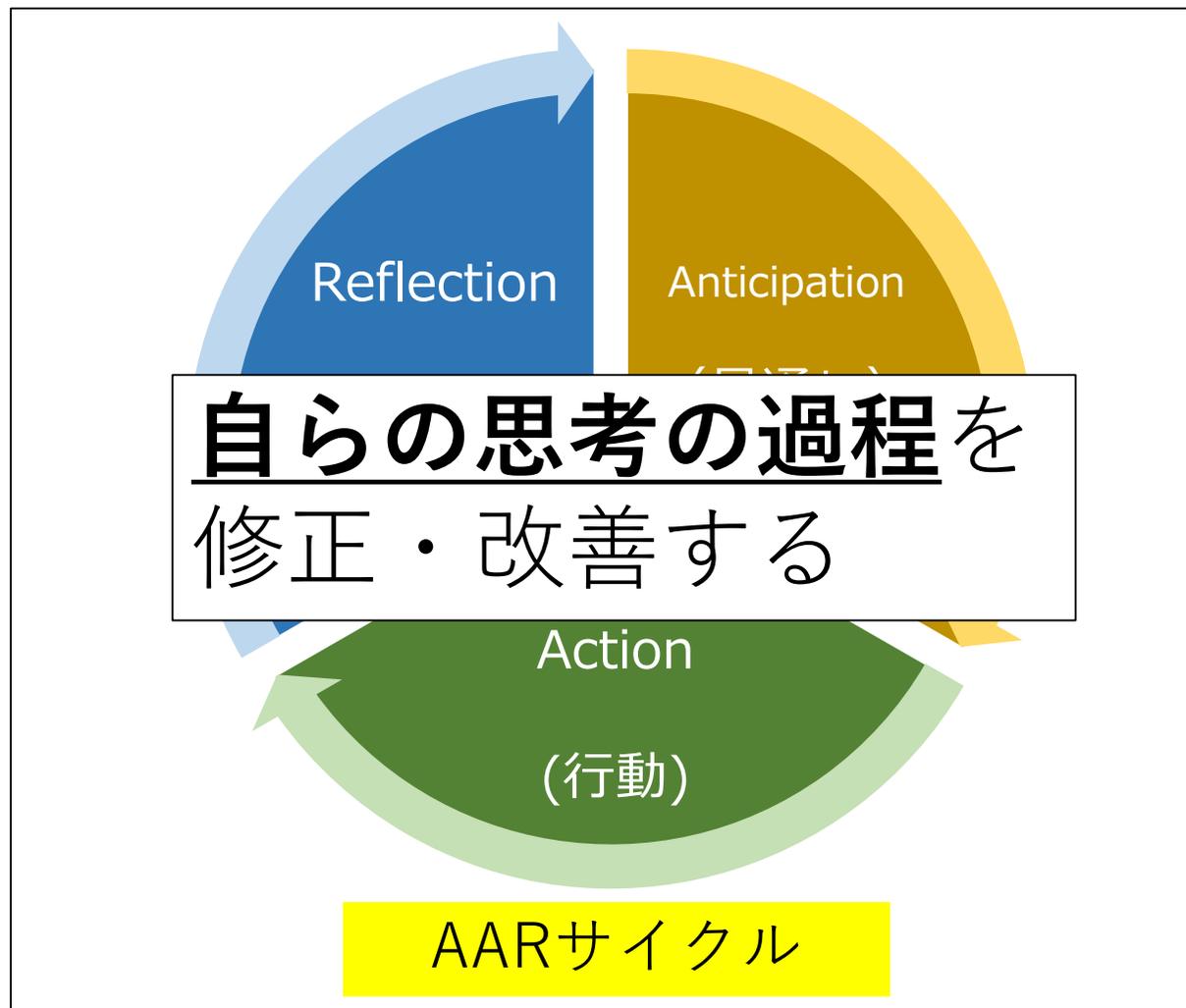
学びに向かう姿

自ら課題を見出したり、目当てや見通しをもちながら、活動に向かう姿

AARサイクルについて

AARサイクルとは

AARサイクルとは、OECD（経済協力開発機構）によって提唱されている生徒が主体的・自律的に物事に取り組むために必要とされる資質・能力を育成するために必要としているプロセス



AARサイクルとは

サイクルを働かせるのは児童生徒

学習者が継続的に思考を改善したり、意図的かつ責任ある形で行動することができるような反復的なプロセス

OECD Education2030 プロジェクトが描く教育の未来

サイクルを働かせる場面や期間、手段はさまざま

AARサイクルとは

Anticipation
見通し

今から取ろうとしている行動が、どのような帰結をもたらすのかということ意識して考えること

Action
行動

「見通し」の段階を経て、本来の目的に沿って「行動」が行われること

Reflection
振り返り

自分自身や他者の行動を客観的に評価することで、将来の行動の改善につなげていくこと

OECD Learning Compass 2030 仮訳

OECD Education2030 プロジェクトが描く教育の未来

子どもの「**かんがえる**」姿について検討・考察し、よりよい支援を目指す

研究仮説

**子ども一人一人がAARサイクルを働かせることによって、
学びが深まり、主体性や学びに向かう力が養われるのでは
ないか**

子ども一人一人がどのようなことを「かんがえ」、活動に取り組んでいるかを見取り、適切な支援を検討していきます。

研究主題

子どもが自ら学びに向かう各教科等を合わせた指導の授業づくり
- AARサイクルを生かした実践 -

小学部研究テーマ

子どもたちが「**わくわくする**」
遊びの指導の授業づくり
一場づくりに注目して

中学部研究テーマ

子どもが**やりたい・挑戦したい**
と感じる
生活単元学習の授業づくり

高等部研究テーマ

生徒が自分から**一歩踏み出す**
作業学習の授業づくり